

大学入試センター試験および国公立大二次・私大

# 大学入試

分析と対策



英語

学校法人 河合塾  
英語科講師 江本 祐一

启林館

この冊子の内容は次のURLからもアクセスできます  
<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/english/>

## (1) 筆記試験の概要

最後のセンター試験となった2020年度のセンター試験は、筆記試験・リスニング試験共にマーク数は2019年度と同じで、平均点は筆記試験が116.31点で、2019年度の123.30点に対して6.99点のマイナス、リスニング試験は28.78点で、2019年度の31.42点に対して2.64点のマイナスとなっている。筆記試験200点、リスニング試験50点という満点の数字を考えると、リスニング試験のほうが平均点の低下率は大きかったと言える。もっとも、リスニング試験の平均点が2018年度は22.67点、2017年度は28.11点であったことを考えると、2019年度が突出して高かったということであろう。語数は筆記試験が4,384語で116語の増加、リスニング試験は1,142語で23語の減少であった。以下、特に正答率の低かった問題について触れると同時に、2021年度の共通テストとの関連性について考えて行く。

## (2) 設問別分析

### 筆記試験

例年通り、正答率の低い問題は前半の第2問までに特に多くみられた。なお、正答率は河合塾の再現答案でのものである。再現答案の平均点自体、大学入試センター発表の平均点よりも1割程度高いため、実際の正答率はここに挙げる数値よりも低いはずである。

### 第2問 A

問4 Noriko can speak Swahili and 11 can Marco.

- ① also ② as ③ so ④ that

問9 I know you said you weren't going to the sports festival, but it is an important event, so please ( A ) it a ( B ) thought.

- ① A : give B : first ② A : give B : second  
③ A : take B : first ④ A : take B : second

を選んだものが48.5%いた。give O a second thought 「Oについて考え直してみる」という表現を知らなかったようで、ここでも慣用表現の知識不足が見て取れる。もっとも設問文と選択肢をじっくりみれば、give O<sub>1</sub> O<sub>2</sub>の意味から正解がわかりそうな気もする。逆に言えば、慣用表現を覚える際に、丸暗記しようすることに原因があるのかもしれない。例えばgive O a second thoughtは「Oに2回目のthoughtを与える」と直訳できるから、わかりやすい日本語に直せば「Oについて考え直してみる」の意味になる、といった感じの学習をしていない可能性が考えられる。

### 第2問 B

Hikaru : Yeah, we have to decide now whether to hold it 22 23 until some day next week. We should have thought about the chance of rain.

- ① as ② it ③ off ④ or  
⑤ planned ⑥ put

「週末は雨が降りそうだが、公園でクラスのバーベキューをすべきか?」というPeterの発言に対する応答文を作る語句整序問題。正解は、( we have to decide now whether to hold it ) as planned or put it off ( until ... )となる。問われているのは、as planned「計画どおり」という表現の知識とput it offの語順である。誤答で多かったのは、22に⑥を選んだものと、23に①あるいは③を選んだもの。22に⑥を選んだものはhold itの後にor put it offと続けており、これではas plannedを入れる位置に窮することになる。23に①を選んだものがまさにその典型で、or put it off as plannedのように考えたのであろう。また、23に③を選ぶというのは十分に予想される誤りで、put it offとすべきところをput off itとしたためであろう。実はこの種の問題は、2011年度に、同じく語句整序問題で、( ... and ) the company called him in for ( an interview ).という形で問われている。もっともこの問題は、call him inの語順だけでなく、called for himとはならないという点でのミスもあり、河合塾の再現答案では、センター試験の再現答案史上最低の7.7%という正答率であった。

ここで取り上げた第2問の問題は、共通テストでは出題されることのない形式であるが、私大の受験には必要であり、文法語法の知識は言語の学習には不可欠である。四択問題や語句整序問題という出題形式の是非は意見が分かれるところかもしれないが、受験生の文法語法力を問う意味では、避けて通ることのできない出題形式

問4 : 正解は③の so で、 so V' S' 「S'もそうだ」の表現が問われている。正答率は39.0%で、現役生に限れば33.4%であった。誤答で多かったのは①で、全体の44.5%、現役生に限ればほぼ半数の49.8%がこれを選んだ。①であればcan Marcoという倒置が生じる必要はない。慣用表現の知識不足が原因であろう。

問9 : 正解は②であるが、③を選んだものが24.7%、④

と考えられる。重箱の隅をつつくような細かい知識を問う問題はセンター試験では出題されてこなかったが、共通テストの時代になってもセンター試験の第2問型の問題演習は有効であると考えられる。

読解系で正答率が低かった問題は次の2題。例年、読解系の問題の正答率は5割を超えており、2020年度に關しても、正答率が5割を割り込んだのはこの2題のみであった。

#### 第4問 A

問2 Which of the following statements is true about the experiment?

- ① Eighty-one throws were made from the same initial throwing location in the Blocked group.
- ② The distance from the target remained unchanged during the entire experiment for the Combined group.
- ③ The set of throws from the same location involved various ways of throwing for the Combined group.
- ④ Throwing three or more times in a row from the same location was against the rules for the Random group.

No more than two consecutive throws were allowed from the same location for this group. という本文中の記述（第3段落第6文）より、④が正解である。ここでは no more than two consecutive throws の意味と this group の指示内容の把握が正解するポイントとなる。正答率は44.1%。誤答で多かったのは③で、33.9%がこれを選択した。第3段落第2文に All students were instructed to use an overarm throwing motion ... とあることから、「various ways of throwing がなされた」という③は誤りである。第2文の内容を見落としたのか、the Combined group の Combined の意味が文脈的に理解できなかったのか、といったところが誤りの原因であろう。

#### 第6問 A

問3 Which of the following is closest to the meaning of the underlined word counterfeit in paragraph (4)?

- ① accept illegal exchanges
- ② create unauthorized imitations
- ③ restrict unapproved technology
- ④ withdraw unnecessary support

自動販売機の発達の歴史を述べた英文。自動販売機産業が直面した最大の問題として、自動販売機をだすことができるお金を作ることが可能であるということが述べられた後に、「このため自動販売機産業はより優れた検知方法を確立しなければならなくなり、これが各国が counterfeit することが困難なお金を作り始めた理由の1つであった」とあることから、counterfeit は「偽札を作る」つまり「非公認の模造品を作る」という意味であることがわかる。正解は②だが、正答率は45.8%で、読解問題の中では比較的の悪い問題であった。文脈から意味を推測する力は、2021年度以降の共通テストは言うまでもなく、私立大学や国公立大学の二次試験でも必要であることは言うまでもない。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

第1問のような紙の上の発音問題は、一部の私立大学の入試を除けば今後は必要なくなるだろう。しかし、第2問は先にも述べた通り、文法語法の力をつける（あるいは問う）うえで有効であると思われるし、第3問以降の読解問題は、出題形式に違いがあるとはいえ、共通テスト対策として有効であると考えられる。ただし、共通テストでは処理すべき情報量がセンター試験と比べるとかなり増加することになるので、演習問題として受験生に解かせる際には、時間的な負荷をかけることも必要になるだろう。

#### リスニング試験

ここでも、特に正答率の低かった問題を取り上げる。

#### 第1問 A

問4 What will the woman do?

- ① Ask Jim to come on time
- ② Find a place for Jim
- ③ Open the party room
- ④ Speak to start the party

読み上げられた英文

M : I'm worried about the opening remarks at the party tomorrow.

W : I heard Jim will do that.

M : He said he'll be late .... Would you mind taking his place?

W : Not at all.

Would you mind ...? — Not at all. という組み合わせが表す意味はわかっていても、take one's place という慣用表現の知識不足が正答率の低さにつながっているようである。正解は④で正答率は22.5%だが、実に40%の受験生が②を選んだ。

## 第1問 A

問5 How many DVDs does the man own?

- ① 120 ② 150 ③ 200 ④ 220

読み上げられた英文

W : You have so many DVDs!

M : I have a hundred here, but it's only half of my collection.

W : Wow, that's a lot!

M : Actually, I'm thinking of ordering 20 more.

男性の最初の発話にある it's only half of my collectionを考えに入れられるか、最後の発話の I'm thinking of ordering 20 more に惑わされずに答えられるか、という点が問われている。正解は③で、正答率は 39.9% だった。①を選んだ受験生が 30.8% いたが、これは聞こえた数字の a hundred と 20 を単純に足してしまったという誤りである。

## 第2問

問13

- ① But I can't be by myself.  
② But I can't help it.  
③ But I couldn't try it either.  
④ But I couldn't have.

読み上げられた英文

W : You got 90 on your test, Yuto. Well done!

M : Thank you very much, Ms. Hayashi. Actually, I wanted a perfect score.

W : Don't be so hard on yourself.

対話の後に続く発言を選ぶ問題で、共通テストの試行テストでは出題のない形式。ここでも be hard on A や can't help it といった慣用表現の知識不足が正答率の低さの原因と考えられる。正解の②を選んだ受験生は 30.5%。①が 26.6%、④が 28.5% となっている。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

試行テストを見る限りでは、共通テストではセンター試験にない形式の問題として、短い英文の内容理解が問われる問題が出題されると同時に、問題によっては読み上げが 1 回のみのものも出題されるといった変更点がある。しかし、筆記試験同様に、第2問も含めてセンター試験のリスニング問題の活用は有効である。ただし、問題によっては読み上げの回数を 1 回に減らすなどの対応は必要である。

## 2

# 国公立二次試験

## (1) 概要

2019年度同様の出題形式を踏襲した大学が多かった中、出題形式が毎年のように変わる大学もみられ、受験生に型にはまつた傾向対策を立てさせたくない、という意図がうかがわれた。2016年度に「読む・聞く・書く・話すの 4 技能の統合」、とりわけ「読む・書く」を意識した意欲的な出題をした大学の中に、出題内容と受験生の学力の間の乖離がみられたためか、2017年度以降はややトーンダウンした大学がいくつかみられた、と昨年度指摘したが、2020年度も英作文関連で、2019年度の意欲的な出題から従来の出題に戻した大学も含め、英作文の問題を中心に出題形式が変わった大学が多くみられた。

2020年度の主要な国公立大学で、出題形式や内容について目についたものを取り上げる。

**東京大**：毎年のように出題形式に変化がみられる。第1問(B)では、文補充問題以外の問題として語句整序が出題された。因みに 2019年度は本文中からの単語補充問題、2018年度は本文中の一部分の英語での要約が出題されていた。第2問(A)は、自由英作文の出題である点は変わりないが、出題内容に年度間で大きな変化がある。2018年度は戯曲の引用を読んで思うことを英語で述べる問題、2019年度は新たな祝日を考える問題であったが、2020年度は「私たちは言葉を操っているのか。それとも、言葉に操られているのか」という抽象度の高い出題で、書くべき内容に窮した受験生も多かったのではないだろうか。また、第2問(B)は2018年度に21年ぶりに復活した和文英訳問題の出題が続いているが、2020年度はこれまでとは異なり、「まゆつば」「かくて」など、日本文の内容理解が求められる京都大的な出題になった。なお、2019年度とは異なり、2020年度はリスニング問題のスクリプトが公開されている。

**京都大**：2015年度以降、出題形式が毎年変わっているが、2020年度も同様で、2019年度に出題された、読解問題中のテーマ論述型の自由英作文(100語程度)の出題はなくなり、京都大としては初めて手紙文を書く問題が出題された。2019年度に復活した和文英訳問題の出題は継承されている。そして、読解問題での変化としては、和文英訳問題が 1 回のみの出題となり、残りは内容説明問題となった。「英文和訳と和文英訳」というかつての京都大の問題とは隔世の感があ

る。さらに、説明問題2問だけの出題であった第2問では、問題のリード文に「自ら『インディアン』としての誇りを持つアメリカ先住民の著者が、北アメリカ大陸における自分たちの歴史について語ったものである」のような、本文の内容に関する記述が入ったのは初めてのことである。

**北海道大**：従来通りの出題内容。ただし、2019年度の第1問の長文の内容一致問題で「本文で述べられている順に」という新たな指示が加わったが、2020年度では「時系列順に」というさらに珍しい指示文が加わった点が目新しい。2017年度には「日仏の労働環境を比較し日本の長所を書く」という難問の自由英作文が提出されたが、2018年度以降は比較的身近な内容の自由英作文問題が提出されており、2020年度は「自動運転車が普及する社会に住みたいかどうか」という内容であった。読解問題の設問の1つとして出題され、本文がかなりヒントになる。本学特有の対話文の要約文完成問題の出題は2020年度も踏襲されていた。

**東北大**：2016年度以降続いている記述問題中心の傾向は2020年度も踏襲され、下線部和訳と日本語による内容説明の問題が出題の中心。文整序問題の出題がなされている点も2019年度と同様。自由英作文の問題は、対話文の読解問題との融合で出題されている点は変わりないが、2019年度までは自分の考えを述べる問題であったのに対し、2020年度は発話者の考えを要約する問題に変わった。また、和文英訳問題では、与えられた日本文の意味をしっかりと理解したうえでの英訳を必要とする、かなりの難問が出題されている。

**一橋大**：京都大同様に、ここ数年は自由英作文の出題形式が変わっている。2018年度はニュースを創作する問題が出題され、2019年度は以前にしばらく続いていた写真や絵の描写問題に戻ったが、2020年度は2015年度まで出題されていた3つのトピックから1つ選んで書く形式に変わった。また、2012年度から第3問として出題されていた文法語法系の問題、具体的には、正誤問題もしくは語句整序問題の出題がなくなった。また、リスニング問題では2019年度はABのうちBが客観式問題であったが、ABともに記述式問題となった。

**名古屋大**：2019年度には出題のなかった和訳問題が、第1問、第2問でそれぞれ1題ずつ出題された。また、読解問題中の自由英作文の出題は2018年度以降続いているが、語数に変更点がみられ、2019年度の「10～15語」に対して2020年度は「40語以内」となった。

表を用いた自由英作文問題が2019年度同様に第4問として出題されている。2019年度と比べると、問題文の意味はわかりやすくなっているが、表から読み取れる調査内容に加えて、そのような結果になったと考えられる理由についての記述が求められており、解答は容易ではない。

**大阪大**：いろいろな大学で出題形式が変わる中、際立った変化のまったくない出題が続いている。2020年度も同様であった。昨年度、第2問の読解問題中の語句の意味選択問題が易しくなった印象であったが、2020年度も同様であった。第1問の和訳問題はかなりの難度であり、第2問中の和訳問題は1問増えて2問となった。また、第3問の自由英作文は「キャッシュレス決済の利点と問題点」について70語程度で述べる問題。実際にキャッシュレス決済をしている受験生がどの程度いるのかを考えると、書くべきことが浮かばなかつた受験生もいたかもしれない。

**広島大**：例年通りの出題。第1問の要約問題は、英文自体の語数は582語で2019年度と比べると増加したが、解答語数は220～240字に減少している。いずれにしても、この字数での要約というのはかなり特徴的である。自由英作文では、犬と猫の推計飼育数の変化を示すグラフの説明とその背景として考えられる理由(90語程度)、及び「ペットを飼うことのメリット」について自分の考えを90語程度で表す問題が出題された。2019年度は「空き家問題の解消法」、2018年度は「訪日外国人を増やすための方法」、2017年度は「18歳で選挙権が得られることについて」のように、広島大では、マスコミでよく取り上げられるテーマが自由英作文で出題されることが多いのが特徴である。日頃から身近なニュースには気を配っておきたい。

**九州大**：2018年度以降、読解問題の語数は増減を繰り返しており、2020年度では語数はやや減少した。2019年度は「ながら運転による死亡事故」について述べた200語程度の英文を100語程度に要約し、解決策を50語程度で述べるという、英文要約と意見論述の問題が出題されたが、2020年度は、2018年度以前の独立した自由英作文と和文英訳の問題に戻った。

その他の大学については、金沢大、小樽商科大が解答用紙に英語以外を書くことのない出題を続けていると同時に、小樽商科大では、与えられた選択肢が答えとなるような疑問文を作る問題、内容不一致文を本文に合うように書き直す、という本学独自の問題が続いている。東京外国語大では、読み上げられる英文を聞いて、英文で

要約する問題と自分の意見を述べる英作文の出題が続いている。また、名古屋工業大では、合教科・合科目的な問題として、数学と英語の合教科を意識した出題が続いている。神戸大では、しばらく続いているヴィジュアル情報をを使った自由英作文の問題がなくなり、読解問題中の自由英作文が第1問と第2問に出題された。

## (2) 読解問題

下線部和訳問題の比重はここ数年減少傾向にあると言え、主要な国公立大では必須の出題形式である点に変わりはない。また、ここ数年受験生の構文把握力が低下しているのも事実である。個人的には京都大で下線部和訳問題が1問のみの出題となったのは衝撃的であった。ここでは京都大の第1問(2)の説明問題を取り上げる。

＜前略＞

Research on honeybees has brought to light the cognitive capabilities of (b)minibrains. Honeybees have no brains in the real sense. Their neuronal density, however, is among the highest in insects with roughly 960 thousand neurons — far fewer than any vertebrate.

以下省略

(2) 下線部(b)でいう minibrains とは、ミツバチの場合、具体的にはどのような意味で用いられているか。本文に即して日本語で説明しなさい。

京都大に限らず、説明問題には、1「該当箇所を見つけて訳すことが求められているもの」、2「指示語・代用表現の中身を明らかにすることが求められているもの」、3「省略表現を復元することで説明となるもの」、4「比喩を含む筆者独自の言い回しの説明が求められているもの」の4つのパターンが考えられる。実際にはここに挙げた要素が絡み合った出題が多いが、この京都大の問題は純粋に4のパターンである。ただし、「筆者独自の言い回し」として何を説明するかについては判断が分かれるようで、解答速報で発表された解答は予備校によって異なっていた。具体的には mini に相当する部分だけを説明した解答と、 mini だけでなく brain についての説明も含めた解答である。下線部の直後に「ミツバチには本当の意味で脳はない」とある以上、 brain についての説明は必要であろうが、説明問題に過不足なく答えることの難しさを感じさせる問題であった。ちなみに解答欄は7行であった。

## (3) 表現力

2016年度に「読む・書く技能の統合」を意識した問題が増え、写真やグラフ、地図などのヴィジュアル的な要素を取り入れた出題が増えたが、その後は減り続けている。和文英訳問題の出題については、偏りがあるものの主要大学では必須と言えるだろう。ここでは、京都大で初めて出題された手紙文の作成問題を取り上げる。

大学生の吉田さんが海外の大学へ留学しようとしている。吉田さんになったつもりで、担当者に奨学金についての問い合わせをする丁寧な文章を、解答欄におさまるように英語で作成しなさい。

解答欄は11行で、To whom it may concern, が書き出しに、Best regards, / Y. Yoshida が末尾に書かれており、手紙の本文のみを書くことが求められている。「海外留学」「奨学金」というテーマ自体が受験生になじみが薄いのか、「問い合わせ」という言葉が目に入らなかったのか、自分がこれまでにどれくらい英語を勉強してきたのかを書き連ねた答案が多々みられた。また、問題文をきちんと読んでいないことが原因なのか、書き出しが I want to study in a foreign country. のようなものが大半であった点も驚きであった。そして、さらなる驚きは、そのような再現答案を書いた受験生の多くが、無事京都大に合格したことであった。

## 3

## 私立大学

私立大学では読解重視の傾向が続いている、空所補充、下線部の言い換え、内容一致などが出題の中心である。また、慶應義塾大、早稲田大などを中心に一部の難度の高い大学で、主に「読む・書く」を中心とした技能統合問題が出題されている。空所補充や言い換え問題では、単語や熟語等の語彙的知識をそのまま問う場合と、文意を把握したうえで未知の（あるいは難解な）語句の意味を推測する力を問う場合があるので、基本的な語彙力の強化と英文内容の理解力を高めておく必要があるという点では、国公立大の場合と違いはない。国公立・私立を問わず読解問題の長文化が進んでいるが、客観問題中心の私大の問題は、1題の英文量が多いだけでなく、問題数も多いのが特徴で、限られた時間で設問に答えるトレーニングが絶対に不可欠である。また、ある意味でトリッキーでパズル的な、言いようによっては運に左右

されるような問題が出題されることもある。例えば、早稲田大基幹理工学部の第5問は、連立完成の単語の補充問題であるが、問題文の指示が複雑なうえに英語であり、暗号のような選択肢であった（2019年度も同様）。また、青山学院大経済学部の問題では、2文に共通して入る単語を記述する問題が出題されたが、解答にあたっては、与えられた語句リストのnwdiをwindに直したうえで答えなければならない問題であった。さらに、早稲田大人間科学部の第2問は、2019年度と同様に前置詞と副詞の空所補充問題であったが、NO WORDを含めた選択肢が与えられており、15問中半数近くが、辞書で用法を確認しなければ自信をもって答えられないような問題であった。このような設問形式にでもしない限り、受験生の間で差がつかないからであろうか。なお、小さな変化かもしれないが、法政大の一部の学部では四択式の文法問題が6題出題された。四択式の文法問題の是非は別として、安易な文法軽視の傾向に対する抵抗を、目に見える形で示したと言えるだろう。いずれにしても、私大は国公立大とは比べ物にならないくらい、大学間で出題形式に大きな差がある。安易に過去問中心の学習を勧めることはできないが、ある程度基礎的な力を身につけたあとは、過去問演習を中心に学習を進めるべきであろう。ただし、過去問がもう一度出題される可能性はないと言っていいので、その大学の出題傾向に似た他大学の過去問、特に難度の高い大学の読解問題対策としては、過去問に出典として挙げられている出版物なりウェブページなりにあたってみるのもいいかもしれない。

### 江本 祐一（えもと・ゆういち）

東大、京大、医進の授業を主に担当。京大英文解釈、京大英作文、長文読解などのテキスト、京大オープンの作成メンバー・チーフ。出版物は「英語暗唱文ターゲット450」（旺文社）、「入試英単語の王道」（河合出版・共著）、「センターはこれだけ」（文英堂・共著）など。

|       |            |                                 |                 |                  |
|-------|------------|---------------------------------|-----------------|------------------|
| 本 社   | 〒 543-0052 | 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号               | 電話(06)6779-1531 | FAX(06)6779-5011 |
| 東京支社  | 〒 113-0023 | 東京都文京区向丘2丁目3番10号                | 電話(03)3814-2151 | FAX(03)3814-2159 |
| 北海道支社 | 〒 060-0062 | 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階     | 電話(011)271-2022 | FAX(011)271-2023 |
| 東海支社  | 〒 460-0002 | 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階 | 電話(052)231-0125 | FAX(052)231-0055 |
| 広島支社  | 〒 732-0052 | 広島市東区光町1丁目7番11号広島CDビル5階         | 電話(082)261-7246 | FAX(082)261-5400 |
| 九州支社  | 〒 810-0022 | 福岡市中央区薬院1丁目5番6号ハイヒルズビル5階        | 電話(092)725-6677 | FAX(092)725-6680 |